

## サラスワティー・ガーヤत्री・マントラ

ॐ सरस्वत्यै च विद्महे  
ब्रह्मपुत्र्यै च धीमहि ।  
तन्नो देवी प्रचोदयात् ॥

*om sarasvatyai ca vidmahe  
brahma-putryai ca dhīmahi |  
tan no devī pracodayāt ||*

オーム。サラスワティーを、私たちが知りますように。

創造者、ブラフマーの娘について私たちが瞑想しますように。

女神が私たちの道を照らし、私たちを啓発してくださいますように。

© SYDA Foundation®. 著作権所有。

## スニール・バヒラットによる紹介

宝石に彩られ、うっとりさせるような女神サラスワティーが腕にヴィーナーを持ち、背後には美しい川が流れている様子を想像してみてください。これらのシンボルは、神の壮大な特質を語っています。川の豊かさと絶え間なく流れる性質は、生命を与え、若返らせる女神の本質を示唆しています。さまざまな音調と音質を備えたヴィーナーは、美しい音楽の源です。女神は創造性を刺激します。実に、彼女は宇宙の創造力の現れです。

何年も前に私は、ブラフマー神は全世界を生み出すに当たり、自らの壮大な創造において秩序を確立することを必要としていたという、インドの伝統からの物語を聞きました。ヴィシュヌ神

とシヴァ神への彼の祈りは、至高の創造力として具現化され現れた女神サラスワティーという形で答えられました。惑星の自転を組織し、昼と夜、そして月の満ち欠けを創造し、創造のすべての側面に秩序をもたらしたのは、サラスワティーでした。この女神は、大小を問わず、私たちの生活のあらゆる創造的な行為を通して現れ続けています。

インドの至る所で、サラスワティーは音楽、芸術、言葉、知識、学習の女神として崇拝され、尊敬されています。伝統的に、音楽家や詩人、芸術家は、創造的な活動に着手する前に、サラスワティー・ガーヤत्री・マントラを繰り返し朗唱することによって彼女の祝福を呼び起こします。書き手や話し手は、これらのマントラを通して女神をたたえることによって言葉を洗練し、浄化し、また、学習を支援してもらうために彼女の存在を呼び起こすあらゆる年齢の生徒もそのようにします。

シッダ・ヨーガの道では、生徒はグルの教えを学習する準備として、しばしばサラスワティーの祝福を喚起します。サラスワティー・ガーヤत्री・マントラの朗唱は、学習する教えに集中し理解することに、生徒のマインドを備えさせます。

私の学校の先生が学校の毎日の始まりに、女神にささげられた一連のマントラに私たちを導いてくれたので、私は幼少の頃にサラスワティーを紹介されるという幸運に恵まれました。学校中で幼い子どもたちの声がそれらのマントラを朗唱する甘美な音は、いまだに耳に聞こえます。毎朝、神聖さと静けさの感覚が私の中に定着して、この実践がどのように私のマインドを学習に備えさせたかを思い出します。それらの幼い頃の記憶は、女神への感謝と愛あるつながりを私の中に確立し、そのつながりは長い時間をかけて深まっています。

この古代のマントラは、インドで最も初期の教典の一つである『ヤジュル・ヴェーダ』に由来しています。他の神々にささげられたガーヤत्री・マントラと同様に、サラスワティー・ガーヤत्रीは、古典的な 24 韻律の様式で、8 音節ずつの三行連句内に編成された 24 音節として書かれ

ています。伝統によれば、24 音節のそれぞれは、純粹さ、識別力、平安、鋭い知性など、デーヴィー・サラスワティーの側面を表しています。

サラスワティー・ガーヤत्री・マントラの朗唱は、ヒンズー暦のマーガの月の春の季節の5日目であるヴァサント・パンチャミーの祝祭日の間、特別な位置を占めます。この神聖な日はサラスワティーの誕生を祝うものです。その頃熟しているインドのマスタードのあふれんばかりの黄色の中で、好きな色が黄色と言われるこのデーヴィーをたたえ、多くの人が黄色の服を着ます。女神の祝福を祈願するサラスワティー・ガーヤत्री・マントラを朗唱するために、特別な朝のプージャーが、準備されます。

私がこのマントラを朗唱した体験を通して学んだことは、言葉、すなわちヴァクを浄化し、高める力があるということです。私の言葉がより簡潔で明確になっていくのが分かります。直感的に、何を言う必要があるかを知っています。また、サラスワティー・ガーヤत्री・マントラの朗唱に耳を傾けるだけで、それは私のマインドを照らし、熱意で私の心を元気にさせることに気づきます。

私は、あなたの言葉に刺激を与え、あなたの人生に音楽と詩を取り入れ、そしてまさにそれらの音節の中に宿る女神のすべての豊富な祝福を祈願するために、このマントラの朗唱の実践を育むことをお勧めします。

